

総務省入省時の初心と振り返り

これまでの仕事と働き方を振り返って

就職活動の際、様々な人や分野に携わってみたいと考えていて、総務省で行う業務が基幹的で幅広く、多様な人や分野に接することができると思い志望しました。まだまだ関わりたい分野が多く残っていますが、これまで、法律改正、国際会議の事務局業務や、ベトナムの政府機関に出向いてMoU締結の協議、統計の公表資料作成、出向など、色々な経験ができたことは満足しています。働く環境としては、テレワークや働き方改革について、国の機関の中でも総務省は率先して取り組んでおり、業務についても、大臣説明資料について財務省との調整から局長への説明までの一連を担当するなど、積極的に任せてもらった場面も多くあり、やりがいにつながっていたと思います。振り返れば大変な時もありましたが、仲間にも恵まれ乗り越えられたので、その点も総務省を選んでよかったと思っています。

国を支える人たちを支える仕事

私が出向している内閣官房内閣人事局は、国家公務員の人事管理に関する戦略的中枢機能を担う組織として平成26年に新設された組織です。国家公務員の任用、給与、人事評価等の諸制度や、働き方改革や女性活躍の推進を担当し、国家公務員として働く人々を支え、それを通じて国民の皆様へ貢献することがミッションです。私は、昨年3月まで国家公務員という職業の入口となる「国家公務員の採用広報活動」を担当し、今は出口となる「国家公務員の退職管理」を担当していますが、どちらも内閣官房という立場から、総務省を始めとした各省担当者等の幅広い関係者と連絡・調整する必要がある点は共通です。また、内閣官房自体が各省からの出向者等で構成されています。そういった点は新鮮で非常に面白く、また難しい面でもあるように感じています。



内閣官房内閣人事局
国井 隼人 平成22年入省
KUNII HAYATO



財務省主計局司計課調査主任
宗高 有吾 平成23年入省
MUNETAKA YUGO

数字の世界で点を打ち、繋ぐ

計数を司る職場から振り返って

総務省で採用されて7年目、私は財務省に出向となりました。現在所属している財務省主計局司計課は、国会で成立した予算を各省庁が執行する前に、その具体的な執行内容を財政法や会計法に照らし合わせて審査したり、1年間の政府全体の予算執行を決算書として取りまとめ国会に提出するといった業務を担当しています。日本の国家予算は一般会計だけでも年間約100兆円もの金額ですが、特に決算は1円たりとも誤差が許されない世界ですので、日々緊張感を持って業務に取り組んでいます。こういった数字の世界でも、相手省庁と議論し、ときには「課題を見つけて改善方法を導く」という過程がありますが、総務省行政評価局に在籍時の業務経験が役に立っていると感じています。そして、財務省で得た知識・経験は、総務省に戻ってからも活かせると思っています。

総務省から霞ヶ関へ

幅広いフィールドで活躍する職員

点と点が繋がる職場

総務省は「行政の基本的な仕組み」を所管しているため、スケールが大きく多様な仕事に従事するのが魅力です。特に行政管理・行政評価の分野においては、業務の対象となる政策分野が広く、他省庁、自治体、民間企業等、仕事のカウンターパートも多種多様です。さらに、地方機関や他省庁で勤務する機会にも恵まれているため、業務や職場環境から豊富な知識・経験(「点」)が得られます。今は財務省で数字と睨めっこしている時間が多い私ですが、総務省で得た「点」が思わぬところで財務省での「点」に繋がり役に立つことがあります。総務省での裾野の広い仕事は多くの「点」を提供してくれますし、自分の知らない「点」を持った職員も多くいます。好奇心旺盛に幅広く仕事をしたい方、ぜひ私達と「点」を繋ぎながらこれからをすごしていきませんか？

復興庁での取組

復興庁は東日本大震災からの復興を目的に作られた組織です。2020年度までと期限が設けられており、省庁、民間からの出向者で業務を遂行しています。私の担当業務の一例を挙げると、災害公営住宅でのコミュニティ形成を促進するため、被災者間の交流促進に長けた企業と当該自治会をマッチングし、イベントを開催するなどのコーディネートを促進しています。また、復興の現状や復興活動の好事例を発信する機会が多く、職務上、講義や司会、挨拶を度々しています。復興の進展とともに被災地の課題が平時の課題や他地域の課題と共通してきているため、既存の制度と重複していないか、適切な支援となっているかなどを見極めを大事にしています。現場主義で復興を進めるために出張する機会も多く、被災者や支援者の方と直接話をしながら施策の検討をしています。

いかに国民に裨益するか

総務省は業務の幅が広く様々な経験ができます。私は今は復興庁で業務をさせていただいています。業務に一貫性がないように思われるかもしれませんが、復興においてもICTが活用されており、例えば福島では、老若男女問わず原発避難者等の方がタブレットを活用することにより、離れ離れになった方々同士でつながりコミュニティが形成され、生きがいづくりにも寄与しています。また、総務省でも復興庁でも、国民がより良い暮らしをいかに享受できるか検討し、業務を遂行するというコアな部分は共通しています。多様な経験により視野を広げ、議論をすることがより良い施策の検討につながり、結果的に国民に利益をもたらします。自分の意見がとおったときにはやりがいを感じます。総務省でICTを武器に、日本の未来と一緒にデザインしてみませんか。

多様な経験からICTを考える



復興庁ボランティア・公益的民間連携班/
男女共同参画班主査
秋田 宇慶 平成22年入省
AKITA TAKAYOSHI

刺激的な環境

総務省は若いうちに多様な経験ができる官庁だと思います。私は地方局採用で当初は電波関係の仕事をしていましたが、3年目の今は本省に異動し、国際業務に携わっています。常に新しいことに触れるのは大変なこともあります。刺激で楽しいですし、周囲の方々に助けていただける環境なので安心して仕事を出来ています。また、いま所属している部署は異なる省庁出身者が集まっているため、各省庁のカラーの違いを日々感じています。就職後に後悔しないためには、その省庁のカラーが自分に合うかを見極めることが大事だと思うので、様々な説明会に参加することをおすすめします。ぜひ総務省にも足をお運びください。お待ちしております！

様々な経験ができ、可能性が広がる場所



総務省国際戦略局国際政策課
併任 経済産業省通商政策局G20閣僚会合準備室
伊藤 未帆 平成29年入省
ITO MIHO

はじめてのG20

日本が初めて議長国となるG20サミットに伴い、関係閣僚会合として「G20貿易・デジタル経済大臣会合」が茨城県つくば市で開催され、自由貿易の推進やAI・IoT等の革新的技術を通じた世界経済の成長強化のための取り組みについて議論されます。本会合は総務省だけではなく、関係省庁である外務省・経済産業省、地方自治体が協力して開催します。私が所属するG20閣僚会合準備室では、会合が円滑に進むように全体の流れを調整する業務を行っています。その中で私は広報・プレス担当として、国内外の報道関係者の当日の動線の検討、取材要領の作成等を行っています。国内で開催する国際会議としては過去最大規模であり、前例が少なく、頭を悩ませることが多いですが、日本の魅力を国外に発信するチャンスでもあります。閣僚の動きを妨げず、いかに取材をスムーズに行ってもらうかの検討に日々奮闘中です。